

2023 年度 聖路加国際大学 看護学部 一般選抜 B 方式

# 小 論 文

受験番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

問題は次のページから始まります。

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

アンデルセンによる童話『裸の王様』\*で見られる現象は、集合的無知 (pluralistic ignorance) と呼ばれている。集合的無知とは、それぞれの個人は X という信念 (「王様は裸に見える」) をもっているのだが、自分以外の集団成員は Y (「王様は服を着ている」) という信念をもっていると思っている、という状況が、集団内の全員について同時に成立している状況である。そして、全員が「他のメンバーがもっている」信念 Y とは異なる行動をとることを避けようとする結果、実際は信念 Y を信じている人は 1 人もいないのに、全員が信念 Y に合致した行動をとっているのである。

集合的無知については、おもに社会心理学で様々な研究が行われてきた。〔中略〕

なぜ、このようなことが起きるのだろうか。集合的無知が生じているような場面では、自分だけが周囲の他者と異なることをしてしまうと、恥をかいたり、罰を受けたりする可能性がある。そのため、人々は、自分自身の信念ではなく、他者の信念に合致する行動をとる必要がある。他者の信念は推測するしかないが、この際、それを誤って推測してしまうというリスクが生じる。ゆえに、人々は、実際の他者の信念と異なる行動をとってしまうことがある。実際には集団内の全員の信念が同じときでも、一部の人々の間で推測の誤りが生じて、信念と合致しない行動が生み出されることがある。すると、その行動から、集団内の他の成員の間にも誤った信念の推測が生み出される。このことによってさらに、その誤った信念に合致した行動が生み出される、という連鎖が起こるので、結果的に、実際に全員がもつ信念とは異なる行動によって集団が支配される集合的無知が生まれる。人々が互いに信念を読み合って行動を決めるという状況が、集合的無知を生み出すのである。

【出典】 渡邊正孝、船橋新太郎編集 情動学シリーズ 4『情動と意思決定 感情と理性の統合』(朝倉書店 2018) 139 頁より抜粋

脚注\*

『裸の王様』: アンデルセンが 1837 年に発表した童話。原題は「皇帝の新衣装」の意。衣装にうつつをぬかす王が仕立屋を装った詐欺師 (さぎし) にだまされ、城中の人々もほめたたえるので、下着姿で町を練り歩く。それを見ていたある子どもが「王様は裸だ!」と大声で言い、みんなの目を覚まさせる。

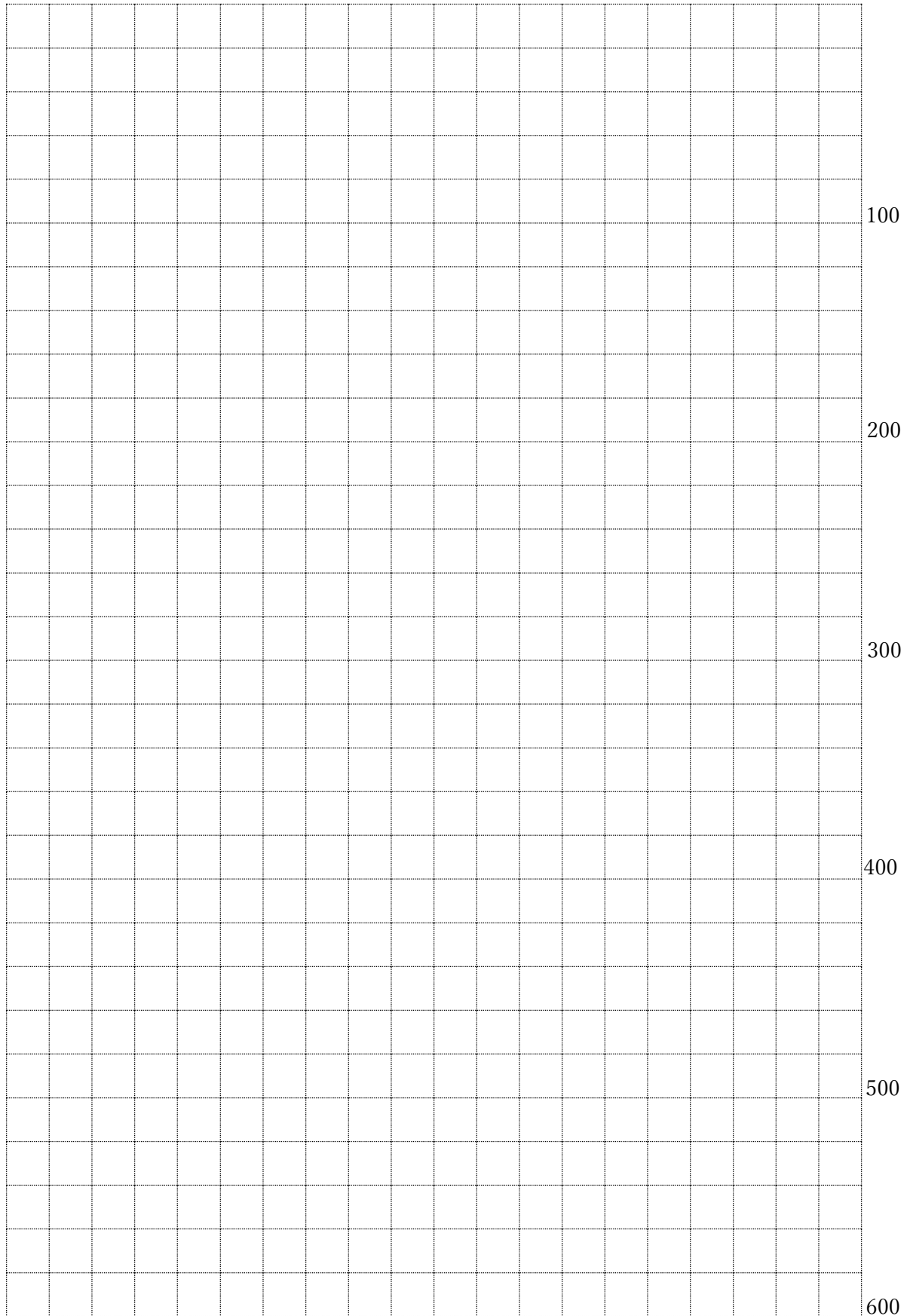
設問 1. この文章を読み、「集合的無知」について、150 字以上 200 字以内で説明しなさい。

設問 2. 文章の例以外に、あなたが「集合的無知」に該当すると思う現象について、250 字以上 300 字以内で述べなさい。

設問 3. 設問 2 で述べた「集合的無知」の現象について、あなたの考えを 550 字以上 600 字以内で述べなさい。



設問 3.



## 2023年度 聖路加国際大学 看護学部 一般入学試験 B方式

# 小論文

### 作題の意図

信念とは、正しいと信じる自分の考え（大辞林）であり、人が生きていく上で重要な概念である。人は、信念を育むことや信念を貫くことの難しさを経験しながら、互いの信念を認め合うことの大切さを学びながら人間力を形成していく。「よりよいその人らしい生活を送るために、その人にとっての健康状態を最適化するのが看護であり」、信念について考えることは、看護学を学ぶ上でも重要である。

「集合的無知」をテーマに受験生が「信念」についてどのように考えているかを問うことは、本学のアドミッションポリシーの「人に対する関心や思いやりをもつことができる人」「人の悩みや苦しみを感じることができる人」「人と人との関わりを大切にでき、協働できる人」「看護を学ぶための基礎知識や技術及び態度を持つ人」「自律的、倫理的に行動できる人」を測ることに繋がると考えた。

また、文章の読解力と抽象的な記述と自分自身の周りにある現象を結び付け、自分の考えを論述する力は、本学のアドミッションポリシーの「幅広く学問を探究し、科学的な探究心の旺盛な人」を測ることに繋がると考えた。

以上

2023 年度 聖路加国際大学 看護学部 一般選抜 B 方式  
出典一覧

【小論文】

渡邊正孝、船橋新太郎編集 情動学シリーズ 4『情動と意思決定 感情と理性の統合』（朝倉書店 2018）139 頁より抜粋